歴史的建造物ガイドマップ

小樽市指定歴史的建造物一覧

小樽の歴史的建造物

小樽の街並みの形成について

小樽という地名は、アイヌ語でオタルナイ（砂浜の中の川の意）と呼ばれたことに由来します。江戸期より鰊漁や鮭漁を営む人々により集落が形成され、1865（元治2）年に「村並」となりました。

1869（明治2）年、札幌に開拓使が設置されると小樽の港は北海道開拓の最も重要な港湾として位置づけられ、1880（明治13）年には、道内で最初の鉄道が手宮と札幌間に開通しました。

その後、小樽港は1889（明治22）年には特別輸出港に、1899（明治32）年には国際貿易港に指定され、さらに日露戦争後は南樺太の消費物資の供給地となるなど、小樽はこの頃から急速に発展し、繁栄の一途をたどりました。

一方、街並みの形成過程をみますと、1889（明治22）年には色内・手宮の地先の埋め立てが完成し、この地に石造倉庫が建ち並びました。市街地の中心も勝納町から入船町、堺町、色内町方面に移り、回漕店、問屋、銀行などが軒を並べました。特に「北のウォール街」と呼ばれた銀行街は、明治から大正期にかけて中央の金融機関が進出したもので、本道金融界の中心地として重要な役割を果たしました。

このような背景の中で、色内一帯には中央の建築家の手による旧日本郵船（株）小樽支店（国指定重要文化財）、日本銀行旧小樽支店（小樽市指定有形文化財）など、近代建築が数多く建てられました。

これら明治、大正、昭和初期の建造物は現在も数多く残されており、歴史や文化を今に伝え、小樽らしい街並みを形成しています。

小樽市指定歴史的建造物について

小樽には数多くの歴史的建造物が現存し、建物用途としては漁家、倉庫、店舗、料亭、寺院、教会、銀行など多種多様となっています。これらの建物には当時の最先端の技術や洗練されたデザインが施され、優れた文化遺産として高く評価されています。

小樽市では、1983（昭和58）年に「小樽市歴史的建造物及び景観地区保全条例」を制定し、31棟の「歴史的建造物」を指定しました。

さらに1992（平成4）年には、前条例を発展的に解消し、総合的な都市景観の保全を図るために「小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観条例」を制定し、これら貴重な建物の保存を図るための基礎的な資料を作成するため、市内全域を対象に歴史的建造物の実態調査を行いました。

調査は日本建築学会北海道支部に委託し、同支部に「小樽市歴史的建造物実態調査委員会」が組織されました。

第1次調査では、建築の歴史上貴重であるものや地域の歴史的背景から重要であるものを考慮して選択し、主として外観の状況から構造、屋根、外壁など九つの項目に分けて材質や様式などを調べました。この対象になった建物は2,357棟でした。第2次調査では、この内から主要な508棟を選出し、聞き取り調査や内部調査などを行い、建物の沿革や特長、設計者などの資料収集を実施しました。

これらの調査を経て景観審議会からの答申を受け、保全すべきものを「小樽市登録歴史的建造物」として登録し、この内からさらに所有者の方々の同意を得て指定したのが「小樽市指定歴史的建造物」です。

小樽の歴史的建造物をご紹介します

この冊子では、「小樽市指定歴史的建造物」のほか、国指定重要文化財（旧日本郵船㈱小樽支店、旧手宮鉄道施設、旧三井銀行小樽支店）、国登録有形文化財（ＪＲ小樽駅、旧青山家別邸、銀鱗荘）、北海道指定有形文化財（にしん漁場建築）、小樽市指定有形文化財（日本銀行旧小樽支店）もあわせて紹介しています。

歴史的建造物の写真や概要を用途別に掲載していますので、右の「建築年表と構造・用途一覧」や１２～１３頁の「ガイドマップ」をご覧になりながらご利用ください。

また、１４～１５頁には「歴史的建造物めぐり」のモデルコースを紹介していますので、街並み散策にご利用ください。

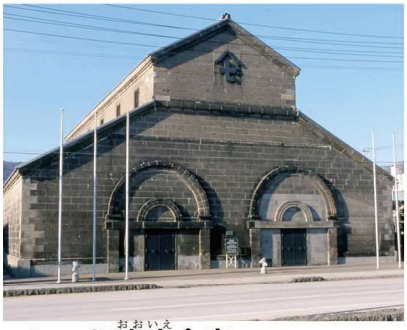
歴史的建造物の建築年表と構造・用途一覧

西暦（年号）	建物の名称	指定番号	構造	用途	頁
1863（文久3）	恵美須神社本殿	第58号	○	神社	08
（明治初期）	旧作左部商店蔵	第43号	□	蔵	01
1876（明治9）	龍徳寺本堂	第60号	○	寺院	09
1877（明治10）	旧白鳥家番屋	第62号	○	漁家	10
1885（明治18）	旧手宮鉄道施設	国文化財	▲	鉄道施設	11
1887（明治20）	旧金了元二郎商店	第34号	●	店舗	05
1889（明治22）	旧広海倉庫	第66号	●	倉庫	02
1890（明治23）	旧小樽倉庫	第13号	倉庫:●事務所:△	倉庫	01
	天上寺本堂	第49号	○	寺院	08
1891（明治24）	旧大家倉庫	第1号	●	倉庫	01
	旧木村倉庫	第21号	●	倉庫	01
1892（明治25）	旧渋澤倉庫	第20号	●	倉庫	01
	旧嶋谷倉庫	第42号	●	倉庫	01
1894（明治27）	旧右近倉庫	第65号	●	倉庫	02
1895（明治28）	旧第百十三国立銀行小樽支店	第9号	●	銀行	03
1896（明治29）	旧魁陽亭	第2号	○	料亭	09
1897（明治30）	旧岩永時計店	第8号	●	店舗	04
	徳源寺本堂	第59号	○	寺院	08
	にしん漁場建築	道文化財	○	漁家	11
1900（明治33）	旧猪俣邸	第75号/国文化財	○	漁家	07
1902（明治35）	旧遠藤又兵衛邸	第4号	○	邸宅	07
1903（明治36）	旧増田倉庫	第22号	●	倉庫	01
1904（明治37）	旧早川支店	第15号	●	店舗	04
1905（明治38）	旧岡崎倉庫（1号棟）	第64号	●	倉庫	02
1906（明治39）	旧岡崎倉庫（2,3号棟）	第64号	●	倉庫	02
	旧名取高三郎商店	第7号	●	店舗	04
	猪股邸	第26号	○	邸宅	07
	旧日本郵船㈱小樽支店	国文化財	■	事務所	11
	旧日本郵船㈱小樽支店残荷倉庫	第54号	■	倉庫	02
	旧磯野支店倉庫	第83号	▲	倉庫	02
1907（明治40）	小樽聖公会	第28号	○	教会	08
	旧久保商店	第33号	○	店舗	05
	旧向井呉服店支店倉庫	第73号	▲	倉庫	02
1908（明治41）	旧百十三銀行小樽支店	第5号	●	銀行	03
1909（明治42）	旧北海雑穀㈱	第85号	●	店舗	05
1911（明治44）	旧小樽区公会堂	第12号	○	宿泊所	09
1912（明治45）	旧北海道銀行本店	第6号	■	銀行	03
	日本銀行旧小樽支店	市文化財	▲	銀行	11
（明治末期）	旧日本郵船㈱支店長社宅	第57号	○	邸宅	07
	旧丸ヨ白方支店	第01号	○	店舗	05
1912（大正1）	旧寿原邸	第27号	○	邸宅	07
	旧塩田別邸	第67号	母屋:○ 蔵:●	邸宅	07
1915（大正4）	旧共成㈱	第17号	▲	店舗	04
1919（大正8）	水天宮本殿、拝殿	第50号	○	神社	08
1920（大正9）	旧日本石油㈱倉庫	第53号	●	倉庫	01
	旧塚本商店	第68号	◇	店舗	05
1921（大正10）	旧上勢友吉商店	第23号	■	店舗	04
1922（大正11）	旧三菱銀行小樽支店	第18号	◆	銀行	03
	旧北海製罐倉庫㈱（旧第2倉庫）	第76号	◆	倉庫	10
1923（大正12）	旧青山家別邸	国文化財	○	邸宅	11
	旧北海道拓殖銀行小樽支店	第31号	◆	銀行	04
	旧高橋倉庫	第51号	●	倉庫	01
1924（大正13）	旧第一銀行小樽支店	第24号	◆	銀行	03
	旧中越銀行小樽支店	第38号	◆	銀行	04
	旧北海製罐倉庫㈱（第3倉庫）	第76号	◆	倉庫	10
1925（大正14）	旧篠田倉庫	第63号	△	倉庫	02
	旧浪華倉庫	第77号	●	倉庫	02
1926（大正15）	旧小樽組合基督教会	第29号	○	教会	08
	旧岡崎家能舞台	第12号	○	能楽堂	09
	旧戸出物産小樽支店	第41号	○	事務所	06
	旧板谷邸	第71号	母屋:○蔵:■	邸宅	07
（昭和初期）	旧前堀商店	第80号	◇	店舗	05
	旧杉森喜一郎邸	第84号	◆	邸宅	08
1927（昭和2）	田中酒造店	第36号	○	店舗	05
	旧花園町会館	第46号	○	会館	10
	潮見台浄水場管理棟	第47号	◆	浄水場	10
	旧嶋谷汽船㈱社長宅	第55号	○	邸宅	07
	坂牛邸	第74号	○	邸宅	07
	旧三井銀行小樽支店	国文化財	◎	銀行	11
1929（昭和4）	旧カトリック富岡教会	第70号	○	教会	09
1930（昭和5）	旧安田銀行小樽支店	第19号	◆	銀行	03
	旧岡川薬局	第32号	○	店舗	04
	旧渡邊酒造店	第37号	○	店舗	05
1931（昭和6）	旧越中屋ホテル	第16号	◆	旅館	09
	旧北海製罐倉庫㈱（工場）	第76号	◆	工場	10
1932（昭和7）	旧小堀商店	第72号	◇	店舗	05
1933（昭和8）	小樽市庁舎	第11号	◆	市庁舎	09
	旧小樽商工会議所	第10号	◆	事務所	06
	旧通信電設浜ビル	第40号	◆	事務所	06
	旧水上歯科医院	第78号	○	医院	10
1934（昭和9）	住吉神社社務所	第61号	○	神社	09
	JR小樽駅	国文化財	◆	駅舎	11
1935（昭和10）	旧北海道庁土木部小樽築港事務所見張所	第39号	○	事務所	06
	旧高島町役場庁舎	第45号	○	役場	10
	旧荒田商会	第52号	○	事務所	06
	旧小樽無尽㈱本店	第69号	◆	銀行	04
	旧北海製罐倉庫㈱（事務所棟）	第76号	◆	事務所	10
1936（昭和11）	旧第四十七銀行小樽支店	第25号	○	銀行	03
	旧小樽保証牛乳㈱	第82号	○	事務所	06
1937（昭和12）	旧三井物産小樽支店	第30号	◆	事務所	06
	旧光亭	第79号	○	料亭	10

（構造凡例）　○木造　●木骨石造　□土蔵造　■石造　△木骨煉瓦造　▲煉瓦造
◇木骨鉄鋼コンクリート造　◆鉄筋コンクリート造　◎鉄骨鉄筋コンクリート造

倉　庫

凡例　指定番号　建物の名称
①所在地②建築年③構造④指定年月日

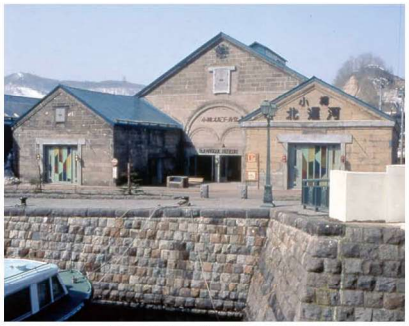


第1号　旧大家倉庫
①色内2-3-11②M24③木骨石造1階④S.60.7.23

石川県出身の海産商大家七平によって建てられ、建物の妻壁に〒の印があります。外壁に札幌軟石を使用し、越屋根と入口部分の二重アーチが特徴です。その雄大さと独特の姿は運河地区の石造倉庫を代表するもののひとつです。平成4年におもちゃ博物館として再利用されたこともあります。同13～14年、外壁や屋根瓦部分等が修復されています。

第13号　旧小樽倉庫
①色内2-1-20②M23～27③倉庫:木骨石造1階
事務所:木骨煉瓦造2階④S60.7.23

色内地先の埋め立て直後に建てられた営業用倉庫のひとつ。正面右手の倉庫が最初の建設で、増築を重ね2つの中庭を囲む大倉庫となりました。寄棟の瓦屋根に鯱をのせた和洋折衷のデザインで煉瓦造の事務所を中心に左右対称に展開し、全体として優雅な美しさをみせています。北側を市博物館、南側を運河プラザに活用、公開されています。



第20号　旧渋澤倉庫
①色内3-3-20②M25頃③木骨石造1階④H3.7.17

運河北部寄りの倉庫群のひとつ。大きな切妻屋根を架けた本体の前面に2棟の角屋が突き出る変わった形をしています。向かって右手が一番古く明治25年頃に建てられた棟。その後左棟を並べて建て、次いで2棟をあわせた大屋根を架けて、今の姿になったといわれています。平成23年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第21号　旧木村倉庫
①堺町7-26②M24③木骨石造2階④H3.7.17

小樽港の繁栄を示す大規模な石造倉庫で、当初は鰊漁場の中継倉庫でした。内部は中央廊下をはさんで二つの倉庫に分けられ、その廊下には港から引き込まれたトロッコのレールが今も残されています。昭和58年、内部空間を生かした硝子店舗に再利用され、ほかの石造倉庫の転用を促進させました。昭和63年、第1回小樽市都市景観賞を受賞しています。

第22号　旧増田倉庫
①色内3-10-19②M36③木骨石造2階④H3.7.17

小樽運河北端に建つ大規模な木骨石造倉庫です。右隣に旧広海倉庫、旧右近倉庫と大規模な倉庫が並び、切妻面を連ねた小樽港独特の壮観な石造倉庫の往年の景観をしのぶことができます。平成9年に大規模な修復工事が行われています。

第42号　旧嶋谷倉庫
①色内1-2-18②M25③木骨石造1階④H5.11.24

木骨石造の特徴をよく伝える小さな倉庫です。室内側に木で骨組みを造り、外壁に石を積む構造です。木と石は「かすがい」(鋼の両端を曲げ、先をとがらせたもの)でつないでいます。この構造の建物は、小樽市内に約350棟あったことが平成4年の調査で確認されています。

第43号　旧作左部商店蔵
①住吉町15-3②M初期③土蔵造2階④H5.11.24

1世紀以上にわたり厳しい風雪に耐えてきた建物です。蔵は、母屋に付属し、物を格納するため、耐火構造にすることが必要でした。小樽の蔵は、はじめ土蔵造りが多く、明治後期から次第に外壁に石を張り付ける木骨石造に変わりました。本建築は、屋根や壁など土蔵造りの特徴を伝える代表的なもので、妻壁の植物をあしらう模様は、外壁のアクセントになっています。平成15年に外観が修復されています。

第51号　旧高橋倉庫
①色内1-2-17②T12③木骨石造2階④H6.5.12

この建物は、大豆を収める倉庫として建てられました。現在は美術館として再利用されています。前面は運河に面し、背面は出抜小路に接して建ち、周辺の歴史的景観を形成している建物のひとつです。小屋組は梁を二重に架け、2本の束を陸梁の中央付近で左右対称に立てるクイーンポストトラス(対束小屋組)と呼ばれる洋風の構造です。

第53号　旧日本石油(株)倉庫
①色内3-6-18②T9③木骨石造1階④H6.5.12

小樽運河周辺には、明治から大正期にかけて、木骨石造の倉庫が軒を連ねていました。本倉庫は、その典型的な建物です。小屋組は、クイーンポストトラス(対束小屋組)と呼ばれる洋風の構造です。2本の束が陸梁の中央付近で左右対称に建てられています。平成10年の運河公園オープンに先立ち、新しい石を用いて建て直されています。

第54号　旧日本郵船(株)小樽支店残荷倉庫
①色内3-7-6②M39③石造1階④H6.5.12

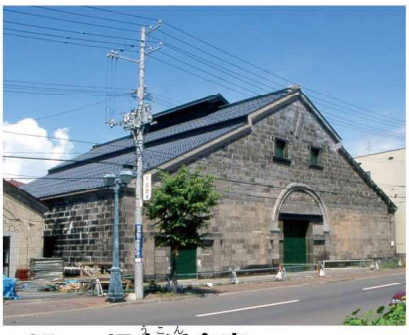
日本郵船(株)小樽支店(国指定重要文化財)と同時にこの残荷倉庫も建設されました。工部大学校第一期卒業の佐立七次郎の設計による、一連の建築として貴重なものです。マンサード屋根の小屋組、壁の石積みの仕様などは、支店社屋と共通しています。平成14年に屋根全部と正面外壁部分が改修され、周囲の景観に調和させています。

第63号　旧篠田倉庫
①港町5-4②T14③木骨煉瓦造2階④H7.11.1

本倉庫は小樽運河の海側に建ち、連続した倉庫群を形成する主要な建造物です。煉瓦の壁は、周辺の石やコンクリート壁に対して景観のポイントになっています。構造は、内部の柱や梁を木で組み立て、外壁に煉瓦を積み立てる「木骨煉瓦造」で、小樽の同規模の倉庫では数少ない事例です。運河沿いの壁は、平成8年の改修工事で新しい煉瓦に取り替えられていますが、古い色合いになるよう工夫が施されています。

第64号　旧岡崎倉庫
①1号棟:信香町2-2／2・3号棟:信香町2-24
②1号棟:M38／2・3号棟:M39
③木骨石造1階一部2階④H8.3.27

明治初期、小樽で初めて市街地が形成されたのは、この周辺地区です。本指定は3棟の連続する倉庫が対象です。海側の倉庫は、臨港線拡幅工事で一部を切り取られたため、平成8年に壁が改修されています。この小屋組はたる木を棟から軒桁に架けるだけの「たる木小屋」になっています。3棟の基礎は、土台と柱の腐朽を防ぐため、下部に煉瓦を積み、その上に軟石を重ねている点で共通しています。平成9年、小樽市都市景観賞を受賞しています。



第65号　旧右近倉庫
①色内3-10-18②M27③木骨石造1階④H8.7.15

明治20年代としては大規模な倉庫で、小屋組にはクイーンポストトラス(対束小屋組)が用いられています。隣の旧広海倉庫、旧増田倉庫との景観はかつての倉庫街の面影を残しています。妻壁の〃は北前船主・右近権左衛門の店印「一膳箸」で船の帆柱に掲げられた船旗にも使われました。平成7年正面の壁が強風で崩れましたが、翌8年に現在の姿に修復されています。

第66号　旧広海倉庫
①色内3-10-19②M22③木骨石造1階④H10.6.8

加賀に拠点をおいた海運商広海二三郎は、本倉庫を大規模な石造り(木骨石造)で建築しました。この土地は、かつて手前まで海岸が迫り、正面の右手の方向に鉄道施設があったことから、海陸ともに荷物の輸送と貯蔵に最適な場所でした。本建築は、荷を積み入れるため奥行きのある長方形で、採光のため屋根の中央と両側に段差を設けています。出入口のアーチは、壁面のアクセントとなっています。

ひとくちメモ①
木骨石造について

小樽には、石造りの歴史的建造物が多く見られますが、中でも、木造の骨組みを持ち、外壁に軟石を積んだ「木骨石造」と呼ばれる構造の建物が大半で、純粋に石積みだけで造られた「本石造」の建物は、少数派です。

構造は、厚さ15cm程度の軟石をかすがいで木骨の軸組に留め、小屋組を架けるというものでした。耐火性能に優れていたため、倉庫をはじめ、店舗や事務所などに広く採用されました。

石材は、「札幌軟石」や「小樽軟石」として知られる凝灰岩が多く使われ、小樽では天狗山、奥沢で採掘されていました。

第73号　旧向井呉服店支店倉庫
①稲穂1-4-13②M40③煉瓦造4階④H23.5.26

向井呉服店支店の倉庫として、市内の中心部に建てられました。小樽では数少ない煉瓦造の倉庫です。内部の木造との組み合わせは、旧手宮鉄道施設内の機関車庫3号(国指定重要文化財)と似た構造になっています。明治37年(1904)年に稲穂町で大火があったことから、防火のために窓の内側には厚い土塗りの防火戸を備えています。現在は再活用され、歴史や文化を感じさせる建物となっています。

第77号　旧浪華倉庫
①港町6-5②T14③木骨石造1階④H24.10.19

市内に現存する木骨石造の倉庫の中でも比較的大規模な建物です。小屋組は、クイーンポストトラス(対束小屋組)と呼ばれる洋風の構造で、屋根には当時採光用として設置された円形の小屋根があります。荷物を搬出入する開口部は、海側の壁面以外に運河側にも配置され、艀へ荷積みする利便さが図られています。運河の完成の2年後に建てられたこの建物は、運河の盛衰を見守りその歴史を今に伝える倉庫建築のひとつです。

第83号　旧磯野支店倉庫
①色内2-2-14②M39③煉瓦造2階④H28.7.25

この煉瓦造りの倉庫は、小林多喜二の小説「不在地主」のモデルになった新潟県佐渡出身の商人である磯野進によって建てられ、佐渡の本店で醸造した味噌などを収納していました。壁の構造は煉瓦積みで、屋根は防火を考慮して瓦を使用しています。また、小屋組は木造でキングポストトラス(真束小屋組)という洋風の構造を用いています。地域のシンボル的な建物であり、平成3年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

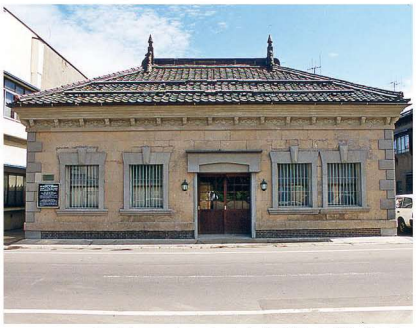
銀　行

第5号　旧百十三銀行小樽支店
①堺町1-25②M41③木骨石造2階④S60.7.23

小樽支店の設置は明治26年で、先代の支店(指定第9号)はこの通りのもう少し南寄りにありますが、業務拡大に応じ建築 されたのがこの建物です。寄棟、瓦屋根で、角地に玄関を設け、上部にギリシャ建築を思わせる飾りを配しているのが特徴です。設計は池田増治郎で、外壁は石張りとなっていましたが、その後外壁に煉瓦タイルを張 り現在の姿となりました。

第6号　旧北海道銀行本店
①色内1-8-6②M45③石造2階④S60.7.23

設計は、通りをはさんで建つ日本銀行旧小樽支店(小樽市指定有形文化財) の設計に携わった長野宇平治で、請け負ったのは地元の加藤忠五郎でした。銀行建築独特の重厚さをもち、玄関や窓まわりの石組みデザイン、コーナー部分や窓の間隔の変化などに特徴があります。外観の正面はほぼ創建時の姿で残っています。



第9号　旧第百十三国立銀行小樽支店
①堺町1-20②M28③木骨石造1階④S60.7.23

この建物は、小樽支店として建てられましたが、業務拡大に応じ同41年にこの通りの少し北寄りに支店(指定第5号) が 移されています。その後、木材貿易商の事務所や製茶会社の建物としても使用されました。平屋建ての比較的小規模な建物ですが、寄棟の瓦屋根に「トンガリ」飾りを付けた和洋折衷の構成で、明治の面影を良く伝えています。軒下に刻まれた分銅模様のレリーフが百十三銀行のシンボルです。

第18号　旧三菱銀行小樽支店
①色内1-1-12②T11③鉄筋コンクリート造4階④H2.7.5

この建物は、かつて、 色内銀行街 といわれた地区の中心に位置しています。建築当初は、外壁に煉瓦色のタイルが張られていましたが、昭和12年に現在の色調に変更されました。1階正面には、ギリシャ・ローマ建築様式を表すように6本の半円柱が並んでおり、この建物を特徴づけています。

第19号　旧安田銀行小樽支店
①色内2-11-1②S5③鉄筋コンクリート造2階④H2.12.22

この建物は、第2次世界大戦後、富士銀行が継承した後、新聞社や飲食店として使われました。ギリシャの建築様式をもった昭和初期の典型的な銀行建築で、重量感あふれる円柱が特徴です。中央通りの道路拡幅に伴い、平成13年に建物が斜め後方に曳き家され、その2年後に小樽市都市景観賞を受賞しています。

第24号　旧第一銀行小樽支店
①色内1-10-21②T13③鉄筋コンクリート造4階④H3.7.17

この建物は、かつて、 色内銀行街 といわれた地区の中心に位置しています。外観デザインは飾り気のない壁面に改変されていますが、当初は道路側2面に3階通しの大オーダーが立てられていました。現在は洋服工場として活用されていますが、内部の2階吹き抜けの営業室は、もとのまま残されています。

第25号　旧第四十七銀行小樽支店
①色内1-6-25②S11③木造2階④H3.7.17

この建物は、色内大通りに面する銀行建築のひとつです。2階建の小規模な行舎ですが、建築当初は、内部を吹き抜けとし、周囲に回廊が設けられていました。正面に4本の大オーダー(円柱)を立て、壁面をタイル張りとする昭和初期の典型的な銀行スタイルで、創建時の姿をよく残しています。

ひとくちメモ②
日本近代建築の縮図

小樽には、日本の近代建築を知る上で、貴重な建築が数多くあります。

日本で最初の建築専門教育機関である工部大学校造家学科（東大工学部建築学科の前身）第1期生の佐立七次郎、辰野金吾、曾禰達蔵をはじめ、長野宇平治、矢橋賢吉など中央で活躍した建築家が小樽に作品を残しています。

彼らが手がけた作品を含め、小樽が北海道の金融、経済の中心として発展した明治後期から昭和初期は、色内地区には中央の大手銀行や地元銀行の本・支店、商社が軒を連ねるように建ち並んだことから、色内銀行街や小樽銀行街と呼ばれました。日本近代建築の縮図を、この地区で見ることができます。

小樽市内の主な建築作品とその設計者

旧日本郵船(株)小樽支店
…… 佐立七次郎
日本銀行旧小樽支店
…… 辰野金吾、長野宇平治、岡田信一郎
旧三井銀行小樽支店
…… 曾禰中條建築事務所
旧北海道銀行本店
…… 長野宇平治
旧北海道拓殖銀行小樽支店
…… 矢橋賢吉、小林正紹、山本万太郎

現在の色内銀行街

第31号　旧北海道拓殖銀行小樽支店
①色内1-3-1②T12③鉄筋コンクリート造4階④H3.10.4

この建物は、小樽経済の絶頂期に建設され、三菱銀行、第一銀行の小樽支店と共に旧色内銀行街の交差点を飾っています。銀行に貸事務所を併設する当時の道内を代表する大ビル建設で、銀行ホールは2階までの吹き抜けで、6本の古典的円柱がカウンターに沿って立ち、光を受けた様は圧巻です。初期鉄筋コンクリート造建築の道内主要遺構でもあります。平成8年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第38号　旧中越銀行小樽支店
①入船1-1-2②T13③鉄筋コンクリート造2階④H5.11.24

創建の頃、この周辺は入船川の河口（現在は暗渠）であり、海側に船入澗が開け、複数の道路が交わり、交通の要になっていました。昭和18年に合併して北陸銀行となり、同38年に南小樽支店に改称されています。外壁はモルタル仕上げで、2階窓列の壁に褐色のタイルを張り、その上に雷文の模様を一列に並べてアクセントをつけています。

第69号　旧小樽無尽（株）本店
①花園4-1-1②S10③鉄筋コンクリート造3階④H14.5.1

この建物は、後に北洋無尽と名称を変え、また、本店を札幌へ移した後も北洋相互銀行、さらに北洋銀行の小樽支店へと変遷し営業を続けてきました。しかし、平成13年、北洋銀行の店舗統合により取り壊される計画が起き、これを知った市民有志がこの建物を自ら買い取り、今では市民の集う建物に活用されています。外観は幾何学的デザインのモダニズム建築であり、八角柱と装飾がその特徴です。

店　舗

第7号　旧名取高三郎商店
①色内1-1-8②M39以降③木骨石造2階④S607.23

山梨県出身の銅鉄金物商名取高三郎が、明治37年の稲穂町大火後に建てた店舗で、裏手に住宅や倉庫を連ねていました。角地に建ち、西側と南側に開いた形で防火のための袖壁（うだつ）を設けています。外壁には札幌軟石が使用されており、上部壁体を鉄柱で支える構造となっています。小樽の明治後期の代表的商家建築といえます。

第8号　旧岩永時計店
①堺町1-21②M30代③木骨石造2階④S607.23

この建物は、時計卸商、初代岩永新太郎の店舗として建てられ、店員で編成された楽団を持つハイカラな商店でした。平成3年の改修により正面2階のバルコニー、半円アーチ扉、手摺などが修復され、ほぼ創建時の姿になりました。屋根の装飾、軒の繰り型など細部にもデザインが施され、瓦葺き屋根を飾る一対の鯱は商店では珍しい装飾であり、当時の小樽商人の意気込みが感じられます。平成5年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第15号　旧早川支店
①色内2-4-7②M37③木骨石造2階④S61.4.11

早川支店は、新潟出身の川又健一郎が茶、紙、文房具を商う早川商店から暖簾分けを受け、現在の場所に開設したのがはじまりで、後に川又商店と店名を変更しています。現在の建物は、明治37年の稲穂町大火で全焼したため再建されたもので、厚い土塗りの防火戸や隣との境界に設けられた袖壁など、防火に対する配慮がうかがわれます。その袖壁には朝日や鶴と亀などの彫刻が施され、繊細な和風意匠でまとめられています。

第17号　旧共成（株）
①住吉町4-1②T4③煉瓦造2階④H1.3.29

明治24年創業の共成（株）は、北海道有数の精米、米穀商でした。メルヘン交差点、かつての有幌倉庫群入口にあたる角地に位置します。石造の多い小樽では珍しい煉瓦造の建築です。壁の褐色の煉瓦、アーチ状窓のキーストーン（要石）や開口部と隅部に積んだコーナーストーンなどが特徴です。家具店舗を経て、現在はオルゴール専門店に再活用されています。平成6年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第23号　旧上勢友吉商店
①入船1-1-5②T10③石造3階④H3.7.17

小樽では明治末期以降、3階程度の木骨石造が多く建てられていましたが、この商店は小樽に現存する数少ない本石造3階建の店舗建築です。寄棟の瓦葺き屋根にドーマ（屋根窓）を設け、正面壁にキーストーン（要石）を強調した窓を並べた意匠が特徴です。昭和55年に正面1階左端の出入口が窓に改修されています。

第32号　旧岡川薬局
①若松1-7-7②S5③木造3階④H5.11.24

岡川薬局は、小樽で有数の「薬種売薬」の老舗です。本薬局は信香町から奥沢につながる道路に面して建ち、この辺りは小樽の市街地として早くから開かれたところです。木造モルタル塗りの建物に、マンサード屋根（2重勾配の屋根）をかけ、ドーマ窓（屋根窓）を設けて屋根裏も使用しています。工期2年のうち基礎工事に1年をかけたと伝えられ、昭和初期の代表的な木造商店建築といえます。 平成29年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第33号　旧久保商店
①堺町4-4②M40③木造2階④H5.11.24

この建物は、小間物雑貨卸を営む久保商店の店舗として建てられました。現在は、和風商店の趣を残しながら喫茶店に再利用されていて、堺町通りの歴史的景観を形成する主要な建物になっています。久保商店時の写真によれば、道路側の下屋は母屋から蔵（木骨石造）まで一体に続き、蔵は前後に2棟並んでいて、母屋の1階は店先として開放できる引戸が入っていました。平成4年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第34号　旧金子元三郎商店
①堺町1-22②M20③木骨石造2階④H5.11.24

金子元三郎商店は、明治・大正期に海陸物産、肥料販売および海運業を営んでいました。店主金子元三郎は、明治32年に初代小樽区長に就任し、その後衆議院議員に数回選出されるなど、小樽を代表する政財界人でした。両袖にうだつを建て、2階正面の窓には漆喰塗りの開き窓が収まり、創建時の形態をよくとどめています。小樽の典型的な明治期商店の遺構といえます。平成5年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第36号　田中酒造店
①色内3-2-5②S2③木造2階④H5.11.24

田中酒造店（店主田中市太郎）の店舗として昭和2年に建てられ、以来、今日まで営業を続けています。かつての酒造店の店構えを残した数少ない建築で、正面の軒下は腕木を手前に迫り出す「せがい造り」になっています。大正、昭和初期にかけて、この形の屋根が小樽の木造商店に多く見られました。昭和初期の和風店舗を商品の販売、展示をかねながら修復、活用した良い例であり、平成元年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第37号　旧渡邊酒造店
①稲穂4-6-1②S5③木造3階④H5.11.24

梁川通りの角地に建ち、この地区のランドマークとなっています。建物の外壁に褐色のタイルを張り、軒先には雷文や卵と檜の模様をつけ、2階窓上には酒樽の看板を掲げています。店内には、天井に模様を型押しした金属板を張り、壁に鏡を飾るなど、昭和初期のモダンなデザインを伝えています。同時期に建てられた田中酒造店は、木造建築で町屋形式の外観をもち、対照的な形態といえます。

第68号　旧塚本商店
①色内1-6-27②T9③木骨鉄網コンクリート造2階④H13.3.27

本建物は、近江（滋賀県）出身の呉服太物商の店舗として建てられました。小樽では、明治37年5月8日の大火で市街地を焼き尽くしたことから、防火構造の建物が普及しました。本建物も防火のために、外壁をコンクリートで塗り固め、出入口や窓を防火戸で覆う工夫を施し、幾多の災いをしのいできました。昭和63年には、暖簾を張るなど優れた建物の再活用によって、第1回小樽市都市景観賞に選ばれました。

第72号　旧小堀商店
①住吉町14-4②S7③木骨鉄網コンクリート造2階④H23.5.26

この建物は、小堀商店の店舗として、市内では古くから市街地が形成された山ノ上町（現在の住吉町）に建てられました。外壁は木造に鉄網を張り、モルタルを厚く塗った木骨鉄網コンクリート造と呼ばれる堅牢な造りで、黒壁が一層重厚さを感じさせます。防火シャッターや二重窓、全館にスチーム暖房を備え、当時の優れた設備を整えていました。母屋の背面には漆喰塗りの蔵が付属しています。なお創建は昭和7年以前の可能性もあります。

第80号　旧前堀商店
①色内2-9-22②S初期③木骨鉄網コンクリート造一部木骨石造3階④H26.7.2

この建物は、銅鉄商「前掘商店」を営んでいた堀岡長太郎により建てられた店舗兼住宅です。一部に鉄骨の使用が推察されます。奥には倉庫に利用されていた木骨石造の建物も連なっています。正面は赤褐色のレンガ風タイル仕上げで、縦長の鋼製の窓を配し重厚な印象を与えています。また、上部の黄色いタイルで縁取られた飾り模様はアクセントになっています。内部の洋間には古代ギリシャ様式の柱が配されるなど内外ともに装飾性が高く、当時のモダンな様式を今に伝えています。

第81号　旧丸ヨ白方支店
①稲穂2-14-1②M末期～S6③木造一部木骨石造3階④H26.7.2

積丹郡余別村（現：積丹町）で創業した酒醸造店「丸ヨ白方」の支店として建てられました。木造の店舗兼住宅と木骨石造の倉庫で構成されています。店舗兼住宅は、タイル張りの外壁に西洋建築の様式を模した軒飾りを施すなど、随所に洋風の特徴がみられます。アーチを設けた3階の窓と2階の窓を一体のデザインとし連続的に配置することで、垂直性を印象付けています。歴史ある商店街の中でも特色ある外観を残している建物です。

第85号　旧北海雑穀㈱
①堺町1-18②M42以前③木骨石造2階④H29.4.25

この建物は、木材の骨組みの外側に軟石を積んだ木骨石造と呼ばれる構造で、瓦葺の切妻屋根、開口部には鉄扉が納められています。また、正面両脇には、小屋根付きの袖壁が設けられています。2階には竿縁天井や床の間があり、和室の面影が残っているほか、彫刻模様付きのカーテンボックスや上げ下げ窓が取り付けられており、和洋折衷の意匠になっています。堺町通りに建つ明治時代の貴重な建物のひとつです。

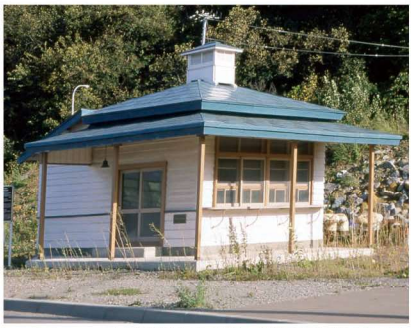
事務所

第10号　旧小樽商工会議所
①色内1-6-32②S8③鉄筋コンクリート造3階④S60.7.23

北海道の発展に寄与する小樽経済界の拠点として建てられました。設計は土肥秀二、施工は萬組で、いずれも地元の手によるものです。外装は石川県産千歳医師で彫刻が施され、正面原研には、土佐産の大理石が用いられています。昭和初期における鉄筋コンクリート造の建物として貴重なもののひとつです。令和5年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第30号　旧三井物産小樽支店
①色内1-9-1②S12③鉄筋コンクリート造5階④H3.7.17

戦前の道内事務所建築の代表作で、当時の建築思想を示す国際建築様式の単純明快な意匠です。設計は松井貴太郎（横河工務所）、施工は大倉土木でした。黒御影石の貼られた玄関や1階の壁は、2階以上の白色タイル壁と鮮やかなコントラストを見せ、新鮮な印象を与えます。玄関ホールは琉球産大理石で内装され、正面には2基のエレベーターが設置されています。センターコアとして階段室、トイレなどは各階に集約配置されています。



第39号　旧北海道庁土木部小樽築港事務所見張所
①築港2-2②S10③木造1階④H5.11.24

北海道経済を先導してきた小樽港の発展とともに歩んできた事務所です。初代小樽築港事務所長の廣井勇博士は、小樽築港工事でコンクリートの施工技術の発展に寄与する研究と開発を行い、今日の輝かしい港湾技術の基礎を築きました。小規模（2.5間×3間）ですが、外壁は2種類の板壁を使い分け、方形屋根に小さい屋根をのせるなど、工夫を凝らしています。小樽港縦貫線の道路工事に伴い、平成13年に東寄り約60mの位置から現在地へ曳き家されています。

第40号　旧通信電設浜ビル
①色内1-2-18②S8③鉄筋コンクリート造4階④H5.11.24

石造倉庫が軒を連ねていた小樽運河沿いに、モダンな鉄筋コンクリートのビルディングとして建ちました。昭和初期の建築が装飾に富んでいたことを知るよい例です。建物の正面デザインは、すべて左右対称になっていて、窓の縦枠はアーチを描き、4階までつながっています。玄関周りは花崗岩で飾り、出入口の欄間は幾何学模様を描いています。玄関の両脇に立つ半円の柱に外灯が組み込まれています。

第41号　旧戸出物産小樽支店
①入船1-1-1②T15③木造一部煉瓦造3階④H5.11.24

この建物は、富山県に本店のある戸出物産の小樽支店として新築されました。入船七叉路（メルヘン交差点）の一角にあり、外観は左右非対称で、窓周りに垂直性を意識した意匠が施されています。旧社屋裏に煉瓦造3階建の倉庫が続き、一体で活用されています。1階室内には、鉄製の円柱が並び、柱の上に肘木をのせ、2階の床組を支えています。

第52号　旧荒田商会
①色内1-2-17②S10③木造2階④H6.5.12

この建物は、荒田商会の本店事務所として建築されました。現在は美術館に再利用されていますが、内壁の漆喰や照明器具、窓枠は創建時の形態を伝えています。石造倉庫が軒を連ねていた小樽運河沿いに建ち、背面の旧高橋倉庫や左隣りの旧通信電設浜ビルなどと中庭でむすび、歴史的景観のまとまりを創っています。

第82号　旧小樽保証牛乳㈱
①花園2-12-13②S11③木造2階④H28.7.25

この建物は、昭和11年に小樽周辺の酪農家が集まって創業した小樽保証牛乳㈱の事務所として建てられました。かつては裏手に工場があり、牛乳の製造や販売が行われていました。事務所部分は、当時、世界的に流行した水平・垂直ラインを強調し　円弧を組み合わせたデザインが特徴的で、創建時の形態をよくとどめています。昭和12年に小樽公園で開催された北海道大博覧会で人気を博し、現在も多くの市民に親しまれるシンボル性の高い建物です。

ひとくちメモ③
よく耳にする建築用語

オーダー

古代ギリシャ神殿建築デザインの基本形式で、円柱・台座・柱頭・エンタブラチュア（柱頭の更に上の部分）で一体的に構成された部分。

第19号 旧安田銀行小樽支店

第25号 旧第四十七銀行小樽支店

マンサード屋根

勾配が2段階になっていて、腰が折れたように見える寄棟形状の屋根。フランスの建築家、フランソワ・マンサールに由来する。

第32号 旧岡川薬局

第71号 旧板谷邸

うだつ

（税、卯建、卯立）　隣地との境に張り出して設けた高い袖壁のことで、火事の類焼を防ぐための一種の防火用の壁。棟木を支える梁上の短い柱（束）という意味もある。

第34号 旧金子元三郎商店

第15号 旧早川支店

邸　宅

第4号　旧遠藤又兵衛邸(木塀、正面門含む)
①富岡1-9-4②M35③木造1階④S60.7.23

この建物は、海産物で富を築いた遠藤又兵衛の邸宅です。富岡の高台地には明治中後期から、豪商たちの別邸が建てられました。木造瓦葺き、下見板張りの武家屋敷を思わせる豪壮なつくりで、和風を基調としながらも玄関脇に洋風の応接室を設け、重厚な門、塀などとともに全体的によく調和のとれた建物です。一時は取り壊しも懸念されましたが、関係者の努力によって、道路に面した主要部分が残されました。平成7年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第55号　旧嶋谷汽船(株)社長宅
①富岡2-25-32②S2③木造2階④H6.5.12

この建物は、港を見下ろす富岡の高台にある住宅で、玄関と2階入母屋瓦葺き屋根の重なりが重厚な印象を与えています。全体を和風にまとめながら、一部応接間に洋風を取り入れています。戦後は、一時進駐軍の情報部として使用されていたと伝えられています。昭和初期の小樽を代表する住宅建築です。

第71号　旧板谷邸
①東雲町1-19②T15～S2③母屋:木造1階／蔵:石造2階④H17.6.10

この建物は、海運業などで財をなした板谷宮吉の邸宅でした。東雲町の高台にあり、和風の母屋とその北側に続く洋館、それに背面の石蔵からなり、内外ともに創建時の姿をよくとどめています。木造モルタル塗りの洋館には、銅板で葺いたマンサード屋根をのせ、堂々とした雰囲気を醸し出しています。一時は、取り壊しも懸念されましたが、関係者の努力により商業施設に転用されています。

第26号　猪股邸(石蔵、石塀、石門含む)
①住吉町②M39③木造2階④H3.7.17

メルヘン交差点から南へ登る高台に位置するこの建物は、小樽に多い実業家邸宅の好例です。外見は純和風造りですが、玄関左脇に洋風の応接室が設けられています。右手が表座敷で、8畳書院の座敷と2室をつなぐ広縁がめぐらされています。擁壁と一体の石蔵、石塀、石門に囲まれた敷地に建ち、外形がよく保存されています。珍しい中国風の石門は、建築主の中国旅行のスケッチに基づくものといわれています。

第57号　旧日本郵船(株)支店長社宅
①末広町3-7②M末期③木造1階④H6.5.12

この建物は、旧日本郵船(株)の支店長社宅として建てられました。同一敷地内には、社員社宅や独身寮などがあり、その敷地は擁壁などで囲まれ、門が設けられていました。支店長社宅の玄関南脇にある洋間は、下見板張りの外壁に上げ下げ窓が設けられていますが、屋根は日本瓦葺きで、洋風と和風が組み合わされています。鬼瓦には、日本郵船の社章がデザインされています。

第74号　坂牛邸
①入船5-8-15②S2③木造2階④H23.5.26

坂牛直太郎の邸宅として、小樽公園南側の白樺林に面した角地に建てられ、周囲の自然と調和した洋風の建物です。薄緑色の横羽目板打ちの腰壁と白い漆喰塗りが対比した外観や1階の八角形の応接間が特徴的です。直太郎は、この邸宅で弁護士を開業しました。設計はアメリカ近代建築の巨匠フランク・ロイド・ライトに師事した田上義也です。室内には田上のデザインした家具が置かれ、隣接する煉瓦塀には彫り込みのサインも残されています。平成23年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第27号　旧寿原邸
①東雲町8-1②T1③木造2階④H3.7.17

この建物は、小樽を代表する実業家寿原家の邸宅です。創建者は、「小豆将軍」として著名な雑穀商高橋直治とされています。水天宮の北側、急な傾斜地に建てられ、主屋から上手に2つの接客棟を連ねています。庭園は、斜面を三段に地割りし、上段には和室に面して池を配した日本庭園があり、中段には洋間に六角雪見灯籠を配し、下段では小樽港を見下ろすことができます。

第67号　旧塩田別邸
①入船2-8-1②T1頃③母屋:木造1階一部2階／蔵:木骨石造2階④H11.5.17

この建物は、小樽有数の回漕店を営む塩田安蔵の邸宅でした。初代安蔵は、明治20年代に堺町と南浜町(現色内)に店を構え、二代安蔵は、昭和初期に小樽・樺太間に豪華な貨客船を就航させました。本邸は和風の主屋に石造りの蔵を組み合わせています。かつて「大玄関」の左側に応接間と茶室、縁側の奥に「大広間」がありました。平成3年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第75号　旧猪俣邸
①桜1-1②M33③木造2階④H24.10.19

この建物は、鰊漁を中心に財を成した猪俣安之丞の邸宅として、明治33年に余市町に建てられました。現在地には昭和13年、東小樽の宅地計画の一環として移築されました。建物の内、旧猪俣家住宅、旧廊下(鰊を保管する小屋)及び移築後に建てられた旧新館が、市の歴史的建造物に指定されていましたが、この内、旧猪俣家住宅と旧廊下が、令和5年2月27日に、「銀鱗荘」として国の有形文化財に登録されました。詳しくは11ページ(文化財)を御確認ください。

第84号　旧杉森喜一郎邸
①緑3-9-5②S初期③鉄筋コンクリート造2階④H28.7.25

この建物は、小樽区議会議員を務めた杉森喜一郎の邸宅として、市街地を一望できる緑町の高台に建てられました。昭和初期に建てられた鉄筋コンクリート造の住宅は、市内では例が少なく、歴史的に貴重な建物です。外観は、タイル張りの柱の間に上げ下げ窓を連続して設けた洋風デザインになっています。外観とは異なり室内の1階には、床の間、違い棚、書院を備えた和室があります。また、部屋の入口には防火戸を設けており、防火の意識が伺えます。

ひとくちメモ④
小樽で最古の建築は

現在、小樽市内に残っている歴史的建造物の中には、今から約150年余り前の江戸時代末期に建てられたものがあります。

忍路神社境内にある津古丹稲荷神社本殿は、1849（嘉永2）年の創建で、小樽では最古のものとされています。なお、この建物は、昭和13年に国道工事のためにいったん解体され、同15年に現在地に移築されています。

津古丹稲荷神社本殿

次に古いものは、祝津にある恵美須神社本殿（指定番号　第58号）で、1863（文久3）年の創建とされています。

津古丹稲荷神社本殿（左：左側外観、中：右側外観、右：正面外観）

教会・神社・寺院

第28号　小樽聖公会
①東雲町10-5②M40③木造1階④H3.7.17

小樽聖公会の最初の会堂は、明治28年、ほかの場所に建設されましたが、その後焼失し、この場所に再建されました。この建物は、水天宮の丘の中腹、急な石段の脇に小樽の町を見下ろすように建ち、木造下見板張り、切妻屋根に鐘撞堂をのせています。軒のレース飾り、星形模様のバラ窓、やや幅広の尖頭アーチ窓などが特徴です。内部は正面に祭壇がある簡素な矩形平面となっています。

第29号　旧小樽組合基督教会
①花園4-20-18②T15③木造2階④H3.7.17

この建物は、公園通りの景観に魅力を添える教会で、2階礼拝堂への階段塔が角地を強調しています。尖頭アーチや装飾アーチ帯などでゴシック風にデザインされています。玄関アーチは、昭和47年の改修で形態を変え、3連アーチとなっています。設計者は成田幸一郎、施工者は高橋権次で、いずれも地元の手によるものです。

第49号　天上寺本堂
①入船4-32-1②M23③木造1階④H6.5.12

このお寺は、明治13年、奥沢十字街近くに浄土宗函館中教院小樽出張所を開いたのがはじまりで、同15年に天上寺を公称しています。この本堂は、明治23年に入船十字街近くに建立され、その後、大正4年に現在地へ移築されました。その外観は、長野県の善光寺を模した入母屋妻入りで、軒下に裳階を付けています。内部は、中央に設けられた柱列で、外陣と内陣に分けられ、その奥に阿弥陀三尊が安置されています。

第50号　水天宮本殿、拝殿
①相生町3-1②T8③木造1階④H6.5.12

小樽の水天宮は、安政6（1859）年、現境内に祀られました。現在の社殿は、大正8年に市内の多くの社寺を手がけた伊久治三郎によって建てられています。本殿、中殿、拝殿が連結する形式の権現造りで、屋根は銅板葺きです。本殿は流造りで、置千木、かつお木を上げています。拝殿は入母屋造りで、正面屋根に大きい千鳥破風、向拝屋根上に小さい千鳥破風2個を飾っています。境内からは小樽港を一望でき、多くの市民に愛される建物といえます。

第58号　恵美須神社本殿
①祝津3-161②文久3（1863）③木造1階④H6.5.12

祝津海岸の段丘上にあり、本殿は覆堂に収められています。本殿の棟札に文久3年の建立とあります。妻飾りに笈形付き太瓶束を設けるなど、この時期北海道で建築された一間社流造り神社本殿に共通する特色を持っています。なお、拝殿、幣殿、覆堂は昭和3年から5年にかけて建築されたものです。境内には、小樽市の保存樹木に指定されているクワとイチイとがあります。

第59号　徳源寺本堂
①塩谷2-25-1②M30③木造1階④H6.5.12

このお寺は、文久2年（1862）年塩谷村吉原に創立され、その後、現在の場所に、この本堂が建てられました。棟梁は、水天宮と同じ伊久治三郎です。本堂の屋根は入母屋造りで正面中央に唐破風をつけています。本堂の平面は奥から内陣、外陣、廊下からなり、内陣の左右に脇陣があります。本堂と左手の龍神堂が並ぶ形式は、小樽市真栄の龍徳寺と共通しています。境内には、小樽市の保存樹木に指定されているクロマツとイチョウがあります。

第60号　龍徳寺本堂
①真栄1-3-8②M9③木造1階④H6.7.7

龍徳寺本堂は、市内で最古の寺院本堂です。寺院設立の発願は、安政4(1857)年、函館の高龍寺18世和尚によります。創設の地は信香町、次いで若松、さらに現在地へと移転しました。現本堂は、棟梁北見八百蔵(佐渡)、脇棟梁古山仁三郎(新潟)によって建てられました。屋根は入母屋造り、平入りでほぼ旧態を残しています。本堂左手の金比羅殿(棟梁加藤忠五郎)と鐘楼は、明治22年の創建です。境内には小樽市の保存樹木に指定されている夫婦イチョウがあります。

第61号　住吉神社社務所
①住ノ江2-5-1②S9③木造1階④H6.8.2

住吉神社社務所は整った和風建築で、木造の社務所としては道内で最大の規模です。平面は、中央に中庭を設ける「ロ」の字形で、本館、客殿、社務所の関係諸室からなっています。中央車寄せと社務所車寄せは、唐破風の屋根をかけ、母屋の千鳥破風と対になっています。設計は、旧小樽区公会堂の設計者としても知られる地元の加藤忠五郎で、大虎が施工しています。境内には、ハルニレなどの樹木が植えられ、住吉神社の森として市民に親しまれています。

第70号　旧カトリック富岡教会
①富岡1-21-25②S4③木造一部鉄筋コンクリート造3階④H16.2.25

小樽におけるカトリックの布教は明治15年に始まり、数度の聖堂建設を経て昭和3年現在地に起工し、翌年6月30日に献堂式を挙げました。正面玄関部の尖頭アーチから十字架を掲げた八角小塔にいたる上昇感を強調した建物で、外観は主にゴシック様式を取り入れています。2階にある礼拝堂には、色ガラスを組み合わせたアーチ窓から柔らかな光が入り、神聖な空間となっています。平成25年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

その他

第2号　旧魁陽亭
①住吉町4-7②M29以降③木造2階④S60.7.23

明治初期に開業した料亭で、亭名は創業期の魁陽亭から開陽亭、海陽亭とかわっています。建物は大半が大正期の増築ですが、2階大広間「明石の間」は、明治29年大火類焼時の再建と推定されています。同39年11月、日露戦役による樺太国境画定会議後の大宴会がここで開かれるなど日本史の舞台にも登場し、政財界など多くの著名人が訪れています。

第11号　小樽市庁舎
①花園2-12-1②S8③鉄筋コンクリート3階④S60.7.23

小樽の有力者土肥太吉の10万円寄付を機に新築されました。設計者は小樽市建築課長であった成田幸一郎以下の建築課スタッフで、旧小樽商工会議所の設計者、土肥秀二もかかわったといわれています。外壁はタイル張りで、正面入口の車寄せ部分とその周辺を茨城産花崗岩積みとした近代建築です。正面上部に彫刻を施した6本の柱を配し、内部中央階段の正面はステンドグラスで彩られ、重厚な市庁舎となっています。

ひとくちメモ⑤
映画の中の小樽

「絵になる風景」や「懐かしいたたずまい」を求めて、小樽を題材とした映画の撮影が数多く行われ、様々な歴史的建造物が登場しています。

1995(平成7)年に公開された「Love Letter」(岩井俊二脚本・監督、中山美穂・豊川悦司出演)では、旧寿原邸(第27号)が撮影場所に利用されました。

そのほかにも、小樽市庁舎(第11号)が「小樽厚生病院」の名前で、旧日本郵船(株)小樽支店(国指定重要文化財)は司書役の主人公が勤める市立図書館として、それぞれ登場しました。

旧寿原邸(第27号)

第12号　旧小樽区公会堂
①花園5-2-1②M44③木造1階④S60.7.23

明治44年、皇太子(後の大正天皇)の本道行啓に際してのご宿泊所として建てられました。この時、小樽区へ寄付を申し出たのが、海運商として名を馳せた藤山要吉です。工事を請け負ったのは小樽の棟梁加藤忠五郎(大虎)です。建物は和風の建築様式で、御殿、本館、付属建物からなります。行啓後公会堂として活用されますが、市民会館建設に伴い、昭和36年に現在地に移築されました。この時、御殿と本館の配置が変わり、地下部分が増設されています。

旧岡崎家能舞台
①花園5-2-1②T15③木造1階④S60.7.23

荒物雑貨商として財をなした岡崎謙が、大正15年、入船町の自宅中庭に建てたもので、後に市に寄贈され、昭和36年、公会堂隣接の現在地に移されました。檜の舞台をはじめ要所には佐渡産神代杉が用いられ、格式にのっとった能舞台で東北以北唯一のものといわれています。鏡板の老松、唐獅子、若竹は狩野派17代秉信が描いたものです。大正15年1月舞台開きを皮切りに芸道研鑽のため中央から再三家元を招いて能楽を開催したといわれます。

第16号　旧越中屋ホテル
①色内1-8-25②S6③鉄筋コンクリート4階④S63.7.15

越中屋は、明治30年代以降の英国の旅行案内書にも載ったホテルです。この建築は外国人利用客のための別館で、国際貿易港小樽を象徴する建築のひとつです。正面から見る姿は、中央にある縦2列のベイウィンドウや両脇の丸窓と垂直の窓割りなどが特徴です。また内部にちりばめられているステンドグラスに第一次大戦後のアール・デコ様式の影響がみられます。設計は倉澤国治です。令和3年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第45号　旧高島町役場庁舎
①高島4-1-1②S10③木造2階④H5.11.24

この建物は、高島町役場として新築されましたが、昭和15年の小樽市との合併により小樽市役所高島支所となり、同21年からは診療所として使われていました。外壁は石綿セメント板を下見板風に羽重ねし、ネジ留めしています。1、2階を通した窓額縁、その間のパネルのメダル状装飾などが、洋風建築の趣を伝えています。設計は小樽市営繕課スタッフの野村秀平で、施工は地元高島の日根組です。高島町時代のシンボルとして地区の大切な建物となっています。

第46号　旧花園町会館
①花園4-3-8②S2③木造2階④H5.11.24

会館の維持管理は、周辺の6町内会が出資する有限会社でおこなっています。外観正面は、左右対称のデザインとなっています。縦長の正面は、マンサード屋根のつく玄関から2階上部小屋裏の窓上まで、変化のある形が並び、切妻の三角屋根をのせています。設計者は地元小樽の萩原米治郎です。平成12年に外壁や屋根などの補修工事が施されています。

第47号　潮見台浄水場管理棟
①潮見台4-143②S2③鉄筋コンクリート造1階④H5.11.24

潮見台浄水場は、朝里川(朝里ダム)を水源とし、入船や松ヶ枝方面へ送水するために造られました。工事は、大正11年7月に始まり、昭和2年12月に完成しました。小樽の水道施設では、奥沢浄水場に次いで2番目のものです。管理棟は、八角形の平面上に、子供の絵本に出てくるようなとんがり帽子状の尖頭屋根をのせ、周りの自然と調和した建物になっています。出入口のアーチの上には、小樽の市章が掲げられています。

第62号　旧白鳥家番屋
①祝津3-191②M10代③木造1階④H7.8.28

祝津は、北海道の初期漁村集落の様子を伝える貴重な地区です。海岸沿いに鰊漁家の住宅、番屋、倉庫などが建ち並び、丘には神社があります。旧白鳥家番屋は主人と漁夫の住居部分が大屋根で一体になっています。主人のすまいには、床の間や欄間を設け和風住宅の特徴を示します。漁夫の寝床は、吹き抜けに巡らされていました。大工は大棟梁が小林秀作、脇棟梁が土門倉次です。平成7年に料理店に再利用され、翌年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第76号　旧北海製罐倉庫(株)
①旧第2倉庫、他2棟:色内3-1、第3倉庫:港町4-6②旧第2倉庫:T11、第3倉庫:T13、工場:S6、事務所棟:S10③鉄筋コンクリート④H24.10.19

小樽運河の東側埋立地に建ち並ぶ主な施設は、大正10年代から昭和10年にかけて建てられ、小樽の鉄筋コンクリート造では初期の建物です。旧第2倉庫は、現存する施設で最も古く、当時の埋立地の形状に合わせ外壁が一部曲面しています。第3倉庫は、建築当初から荷物を揚げ降ろしするためのエレベーターや製品を運河へ搬出するためのスパイラルシュートがあり、機能的な設計がされています。工場は、柱と梁の骨組に窓を組み込んだシンプルな外観です。事務所棟は、横長の連続窓が近代建築の特徴を表しています。平成2年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

第78号　旧水上歯科医院
①住ノ江1-6-26②S8③木造3階④H25.7.25

昭和8年に歯科医院兼住宅として建てられたこの建物は、当時、小樽の建築請負業で名を馳せた大虎の施工といわれています。正面中央に玄関を構え、左側には柱頭に彫刻を施した円柱が建ち、そこから伸びるアーチでベランダと玄関を取り囲んでいます。また、左隅を4層とし、上部に連続アーチ窓を配するなど、左右非対称な外観となっています。昭和初期の代表的な医院建築であり、正面の意匠が秀逸な建物です。

第79号　旧光亭
①東雲町3-8②S12③木造2階④H25.7.25

もとは東京信濃町の料亭「光亭」の小樽店として、昭和12年に建てられました。主屋の東側に3つの棟を配置し、中央の棟には「茶室」があります。主屋は入母屋妻入りで、外壁を押縁下見板とした和風の外観が特徴です。2階の大広間には、座敷飾の床、付書院、地袋棚を備え、それと対面して舞台となる檜の板の間が設けられています。市内に残された本格的な数寄屋建築の料亭として貴重な建物です。

ひとくちメモ⑥
鰊漁と祝津の三大親方

日本海沿岸は、鰊漁で栄えた時期がありました。昭和30年ごろまでは、春になると鰊の大群が産卵のため沿岸に押し寄せ、海が真っ白に濁ったといいます。この様子を群来といいました。この鰊を求めて本州から大勢の「やん衆」と呼ばれる出稼ぎ漁夫が集まり、浜は活気に満ちあふれました。

漁場を経営する親方の中でも、富を築いた青山家、茨木家、白鳥家が、祝津の「御三家」と呼ばれ、漁のほかにも地域の学校建設に資金を提供するなど、まちづくりにも貢献しました。

祝津地区には、旧青山家別邸(国登録有形文化財)や旧白鳥家番屋(第62号)をはじめ、旧漁家の番屋や倉庫など当時の親方が建てた建物が今なお残っているほか、北海道開拓の村(札幌市厚別区)には、旧青山家漁家住宅が移築されており、往時を偲ぶことができます。

日和山燈台と小樽市鰊御殿

文化財〔建造物関連〕

凡例　建物の名称
①所在地②建築年③構造④指定（登録）年月日

<国指定重要文化財>

旧日本郵船（株）小樽支店

①色内3-7-8②M39③石造2階④S.44.3.12

設計は工部大学校造家学科の第一期生、佐立七次郎です。近世ヨーロッパ復興様式の純石造建築で、外観は2色の石を組み合わせ重厚なデザインに統一されています。当時この建物前面には専用の船入間、輸出入倉庫があり、建物の裏側には鉄道が走るなど海運業としての施設が完備されていました。日本郵船は昭和29年まで営業していましたが、同30年に市が譲り受け、その後、同59年から3年間全面的な修理復元工事を行い当時の雰囲気を再現しました。

<国指定重要文化財>

旧手宮鉄道施設

①手宮1-3-2②M18③煉瓦造1階④H13.11.14

北海道最初の鉄道は米国人技師ジョセフ・U／クロフォードの指揮のもと、明治13年、手宮－札幌間に敷かれました。2年後には幌内（三笠市）まで開通し、この鉄道によって積み出された石炭は、小樽港から本州などに運ばれ、日本近代化に大きく貢献しました。施設は、機関車庫3号（現存する日本最古の煉瓦造機関車庫、扇形平面形式）、機関車庫1号、転車台、貯水槽、危険品庫、擁壁から構成され、蒸気機関車が主流であった時代の鉄道システムを現存に伝えています。

<国指定重要文化財>

旧三井銀行小樽支店

①色内1-3-10②S2③鉄骨鉄筋コンクリート2階④R4.2.9

明治13年、当時の土場町に小樽出張所を開設して以降、平成14年に閉鎖されるまで122年間、小樽で活躍した銀行であり、工部大学校一期生の曾禰達蔵が設立した曾禰中條建築事務所の設計による代表的な近代建築の一つです。建物正面は5つのアーチが連なる花崗岩を使用した石積みの外壁で、軒には細かな彫刻が施されたルネサンス様式の建造物です。関東大震災後に建物の耐震化が求められた背景から、小樽初の鉄骨鉄筋コンクリート造であり、昭和初期の銀行建築の貴重な建物です。平成29年に、周辺の歴史的建造物・中庭とあわせて、小樽市都市景観賞を受賞しています。

<国登録有形文化財>

JR小樽駅

①稲穂2-22-15②S9③鉄筋コンクリート造2階④H18.4.12

明治36年10月、函館本線の小樽～余市間が開通し、稲穂町に「小樽中央停車場」が開設されました。現JR小樽駅は、昭和9年に3代目の近代的な駅舎として建てられ、敷地の高低差を利用してプラットホームと地下道が設置されています。創建時には、客溜りのホールの天井にステンドガラスがあり、高さ12mから光が差し込んでいました。外観正面は左右対称であり、JR上野駅によく似ていることで評判になりました。平成11年、エスカレータが4基設置され、バリアフリー化されました。また、同年に小樽市都市景観賞を受賞しています。

<国登録有形文化財>

旧青山家別邸

①祝津3-63②T12③木造2階④H22.9.10

この建物は、祝津の鰊漁網元・青山家の二代目政吉によって建てられた別邸です。大正7年に建築にとりかかりましたが、翌8年に前浜の本邸番屋が焼失し、その再建を優先したため、完成までに6年の歳月を要しました。屋根を銅板や瓦で葺き、指鴨居や縁側床板のケヤキに春慶漆塗を施すなど、内外ともに贅をつくした建物です。平成9年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

<国登録有形文化財>

銀鱗荘

①桜1-1②M33③木造2階④R5.2.27

鰊（にしん）漁を中心に財を成した猪俣安之丞（やすのじょう）の邸宅として、明治33年に余市町に建てられ、現在地には昭和13年、東小樽の宅地計画の一環として移築されました。この母屋（おもや）は猪俣家専用の住宅であり、多くの大規模な鰊漁家（ぎょか）が親方の住居と漁夫の寝床を合わせている点で異なります。また、これほど大きな親方の住宅は、道内に例をみません。母屋の中央にある望楼（ぼうろう）からは、沖合の漁を観察していたと思われます。玄関の右手には、6室の座敷が並び、大きな神棚や床の間を備えています。平成5年、小樽市都市景観賞を受賞しています。

<北海道指定有形文化財>

にしん漁場建築

①祝津3-228②M30③木造2階④S35.5.31

明治から大正にかけて日本海沿岸では鰊漁で大いににぎわいました。この建物は、積丹半島の泊村で鰊漁場を経営していた田中福松の住居兼作業場の宿舎として明治30年に建てられ、その後昭和33年に現在の祝津へ移築されたものです。外観の特徴は、大屋根中央の切妻造りの天窓や伽藍調を帯びた大屋根の庇などで、豊富な道産の木材を使った梁や柱、また東北地方から取り寄せたと思われる檜などがふんだんに使われ、当時の網元の財力の一端をうかがい知ることができます。

<小樽市指定有形文化財>

日本銀行旧小樽支店

①色内1-11-16②M45③煉瓦造2階④H14.9.17

小樽に日本銀行の派出所が開設されたのは明治26年のことで、平成14年支店営業廃止まで、地方経済の発展に重要な役割を果たしました。この建物は支店昇格後に建てられ、設計は日本近代建築の先駆者である辰野金吾、長野宇平治、岡田信一郎です。小屋組には八幡製鉄所製、床にはイギリス製の鉄骨を用い、当時、最先端の技術が使われました。石造り風の外壁は、煉瓦造りの壁にモルタルを塗ったもので、屋根は銅板葺きです。平成15年から金融資料館として公開されています。

旧日本郵船㈱小樽支店と運河公園

旧手宮鉄道施設の機関車庫三号と転車台

倉庫 (1, 2 ページを御覧ください。)

- 1 旧大家倉庫 [B3]
- 13 旧小樽倉庫 [B3]
- 20 旧渋澤倉庫 [B4]
- 21 旧木村倉庫 [C2]
- 22 旧増田倉庫 [A3]
- 42 旧嶋谷倉庫 [C3]
- 43 旧作左部商店蔵 [D2]
- 51 旧高橋倉庫 [C3]
- 53 旧日本石油(株)倉庫 [A4]
- 54 旧日本郵船(株)小樽支店残荷倉庫 [A4]
- 63 旧篠田倉庫 [B3]
- 64 旧岡崎倉庫 [D2]
- 65 旧右近倉庫 [A3]
- 66 旧広海倉庫 [A3]
- 73 旧向井呉服店支店倉庫 [C4]
- 77 旧浪華倉庫 [C3]
- 83 旧磯野支店倉庫 [B3]

銀行 (3, 4 ページを御覧ください。)

- 5 旧百十三銀行小樽支店 [C3]
- 6 旧北海道銀行本店 [C3]
- 9 旧第百十三国立銀行小樽支店 [C3]
- 18 旧三菱銀行小樽支店 [C3]
- 19 旧安田銀行小樽支店 [B3]
- 24 旧第一銀行小樽支店 [C3]
- 25 旧第四十七銀行小樽支店 [B3]
- 31 旧北海道拓殖銀行小樽支店 [C3]
- 38 旧中越銀行小樽支店 [D2]
- 69 旧小樽無尽(株)本店 [D4]

店舗 (4, 5 ページを御覧ください。)

- 7 旧名取高三郎商店 [C3]
- 8 旧岩永時計店 [C3]
- 15 旧早川支店 [B3]
- 17 旧共成(株) [D2]
- 23 旧上勢友吉商店 [D2]
- 32 旧岡川薬局 [E2]
- 33 旧久保商店 [C3]
- 34 旧金子元三郎商店 [C3]
- 36 田中酒造店 [B4]
- 37 旧渡邊酒造店 [B4]
- 68 旧塚本商店 [C3]
- 72 旧小堀商店 [D2]
- 80 旧前堀商店 [B4]
- 81 旧丸ヨ白方支店 [C4]
- 85 旧北海雑穀(株) [C3]

事務所 (6 ページを御覧ください。)

- 10 旧小樽商工会議所 [C3]
- 30 旧三井物産小樽支店 [C3]
- 39 旧北海道庁土木部小樽築港事務所見張所 [F4]
- 40 旧通信電設浜ビル [C3]
- 41 旧戸出物産小樽支店 [D3]
- 52 旧荒田商会 [C3]
- 82 旧小樽保証牛乳(株) [D4]

邸宅 (7, 8 ページを御覧ください。)

- 4 旧遠藤又兵衛邸 [C4]
- 27 旧寿原邸 [C3]
- 55 旧嶋谷汽船(株)社長宅 [C5]
- 57 旧日本郵船(株)小樽支店長社宅 [A4]
- 67 旧塩田別邸 [D3]
- 71 旧板谷邸 [C3]
- 74 坂牛邸 [E5]
- 75 旧猪俣邸 [F4]
- 84 旧杉森喜一郎邸 [D6]

教会・神社・寺院 (8, 9 ページを御覧ください。)

- 28 小樽聖公会 [C3]
- 29 旧小樽組合基督教会 [D4]
- 49 天上寺本堂 [E4]
- 50 水天宮本殿、拝殿 [C3]
- 58 恵美須神社本殿 [A6]
- 59 德源寺本堂 [F6]
- 60 龍德寺本堂 [E2]
- 61 住吉神社社務所 [E3]
- 70 旧カトリック富岡教会 [C5]

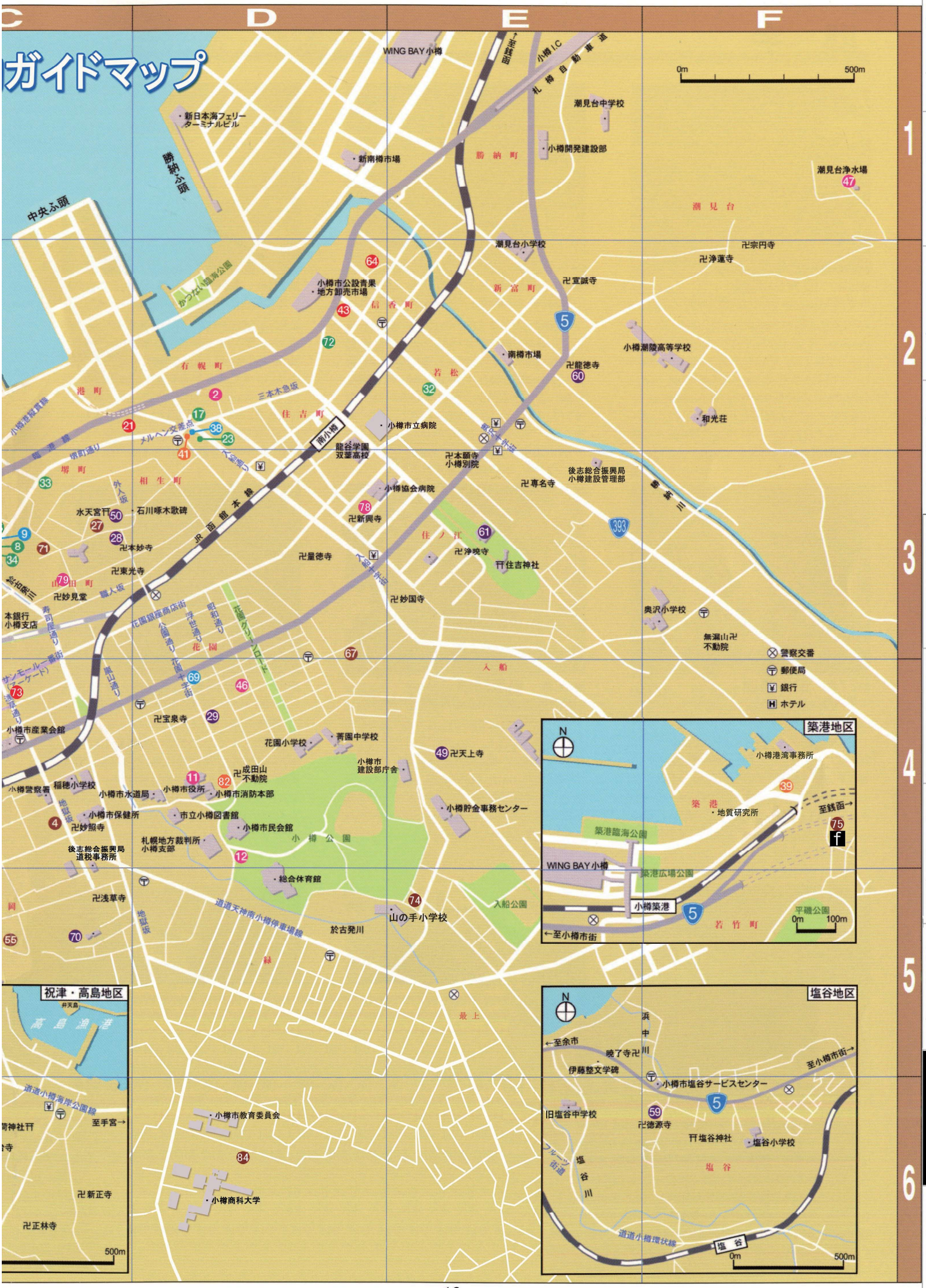
その他 (9, 10 ページを御覧ください。)

- 2 旧魁陽亭 [D2]
- 11 小樽市庁舎 [D4]
- 12 旧小樽区公会堂／旧岡崎家能舞台 [D4]
- 16 旧越中屋ホテル [C3]
- 45 旧高島町役場庁舎 [C6]
- 46 旧花園町会館 [D4]
- 47 潮見台浄水場管理棟 [F1]
- 62 旧白鳥家番屋 [A5]
- 76 旧北海製罐倉庫(株) [A3, B3]
- 78 旧水上歯科医院 [D3]
- 79 旧光亭 [D3]

文化財[建造物関連] (11 ページを御覧ください。)

- a 旧日本郵船(株)小樽支店 [A4] 〈国指定重要文化財〉
- b 旧手宮鉄道施設 [A3] 〈国指定重要文化財〉
- c 旧三井銀行小樽支店 [C3] 〈国指定重要文化財〉
- d JR 小樽駅 [C4] 〈国登録有形文化財〉
- e 旧青山家別邸 [B6] 〈国登録有形文化財〉
- f 銀鱗荘 [F4] 〈国登録有形文化財〉
- g にしん漁場建築 [A5] 〈北海道指定有形文化財〉
- h 日本銀行旧小樽支店 [C3] 〈小樽市指定有形文化財〉

ガイドマップ


C
D
E
F
1
2
3
4
5
6
0m
500m
WING BAY小樽
新日本海フェリーターミナルビル
勝納ふ頭
中央ふ頭
新南樽市場
小樽市公設青果・地方卸売市場
かつない臨海公園
有幌町
港町
三本木急坂
住吉町
南小樽
メルヘン交差点
堺町通り
堺町
相生町
外人坂
水天宮
石川啄木歌碑
本妙寺
東光寺
妙見堂
山田町
職人坂
本銀行小樽支店
寿司屋通り
サンモール一番街（アーケード）
花園銀座商店街
公園通り
昭和通り
花園十字街
花園
富山通り
小樽市産業会館
宝泉寺
稲穂小学校
小樽警察署
小樽市水道局
小樽市役所
小樽市消防本部
成田山不動院
地獄坂
小樽市保健所
妙照寺
市立小樽図書館
小樽市民会館
札幌地方裁判所小樽支部
後志総合振興局道税事務所
小樽公園
総合体育館
浅草寺
道道天神南小樽停車場線
於古発川
山の手小学校
入船公園
最上
小樽市教育委員会
小樽商科大学
JR函館本線
龍谷学園双葉高校
小樽市立病院
本願寺小樽別院
小樽協会病院
新興寺
量徳寺
浄暁寺
住吉神社
妙国寺
専名寺
後志総合振興局小樽建設管理部
勝納川
奥沢小学校
無漏山卍不動院
入船
花園小学校
菁園中学校
小樽市建設部庁舎
天上寺
小樽貯金事務センター
小樽市
小樽開発建設部
潮見台中学校
潮見台浄水場
潮見台
宗円寺
浄蓮寺
宣誠寺
新富町
小樽潮陵高等学校
龍徳寺
和光荘
若松
勝納町
信香町
小樽港線貨物
臨港線
堺町通り
小樽市産業会館
小樽ICへ
札幌自動車道
函館方面→
警察交番
郵便局
銀行
ホテル
祝津・高島地区
高島漁港
弁天島
道道小樽海岸公園線
至手宮→
新正寺
正林寺
500m
築港地区
小樽港湾事務所
築港
地質研究所
至銭函→
築港臨海公園
WING BAY小樽
築港広場公園
小樽築港
←至小樽市街
若竹町
平磯公園
0m
100m
塩谷地区
←至余市
浜中川
暁了寺
伊藤整文学碑
小樽市塩谷サービスセンター
至小樽市街→
旧塩谷中学校
徳源寺
塩谷神社
塩谷小学校
塩谷
塩谷川
フルーツ街道
道道小樽環状線
塩谷
0m
500m

歴史的建造物へのコース紹介

《■スタート》
〈国登録有形文化財〉

d ＪＲ小樽駅

		《■目的地》
1	徒歩　約15～20分	a 〈国指定重要文化財〉旧日本郵船（株）小樽支店
2	徒歩　約5～10分	13 〈小樽市指定歴史的建造物〉旧小樽倉庫
3	徒歩　約10～15分	c 〈国指定重要文化財〉旧三井銀行小樽支店
4	徒歩　約10～15分	g 〈小樽市指定有形文化財〉日本銀行旧小樽支店
5	徒歩　約20～25分	17 〈小樽市指定歴史的建造物〉旧共成（株）
6	徒歩　約20～25分	50 〈小樽市指定歴史的建造物〉水天宮本殿、拝殿
7	徒歩　約10～15分	77 〈小樽市指定歴史的建造物〉旧浪華倉庫

《■目的地付近の主な小樽市歴史的建造物・公園など》

22 旧増田倉庫 65 旧右近倉庫 54 旧日本郵船㈱小樽支店残荷倉庫	53 旧日本石油㈱倉庫 66 旧広海倉庫	運河公園 北運河 北浜橋
1 旧大家倉庫 33 旧磯野支店倉庫 80 旧前堀商店	19 旧安田銀行小樽支店 15 旧早川支店	小樽市総合博物館運河館 中央橋街園
10 旧小樽商工会議所 31 旧北海道拓殖銀行小樽支店	16 旧越中屋ホテル	
6 旧北海道銀行本店	30 旧三井物産小樽支店	小樽文学館・小樽美術館
2 旧魁陽亭 38 旧中越銀行小樽支店	23 旧上勢友吉商店 41 旧戸出物産小樽支店	メルヘン交差点
27 旧寿原邸 79 旧光亭	28 小樽聖公会	外人坂
40 旧通信電設浜ビル 51 旧高橋倉庫	42 旧嶋谷倉庫 52 旧荒田商会	浅草橋街園

〈国指定重要文化財〉

a 旧日本郵船㈱小樽支店

〈小樽市指定歴史的建造物第13号〉

13 旧小樽倉庫

〈国指定重要文化財〉

c 旧三井銀行小樽支店

〈小樽市指定有形文化財〉

g 日本銀行旧小樽支店

〈小樽市指定歴史的建造物第17号〉

17 旧共成㈱

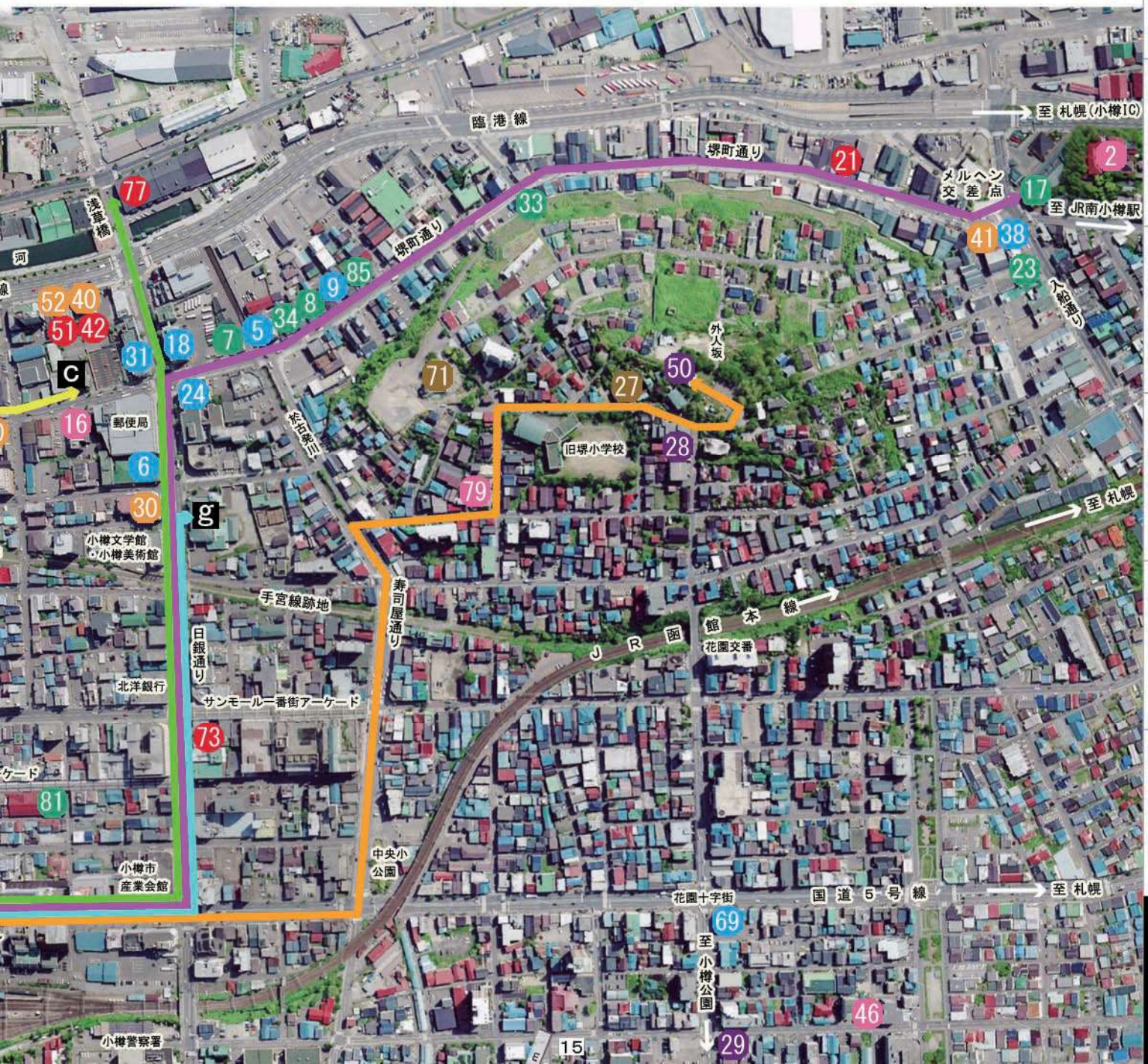
〈小樽市指定歴史的建造物第50号〉

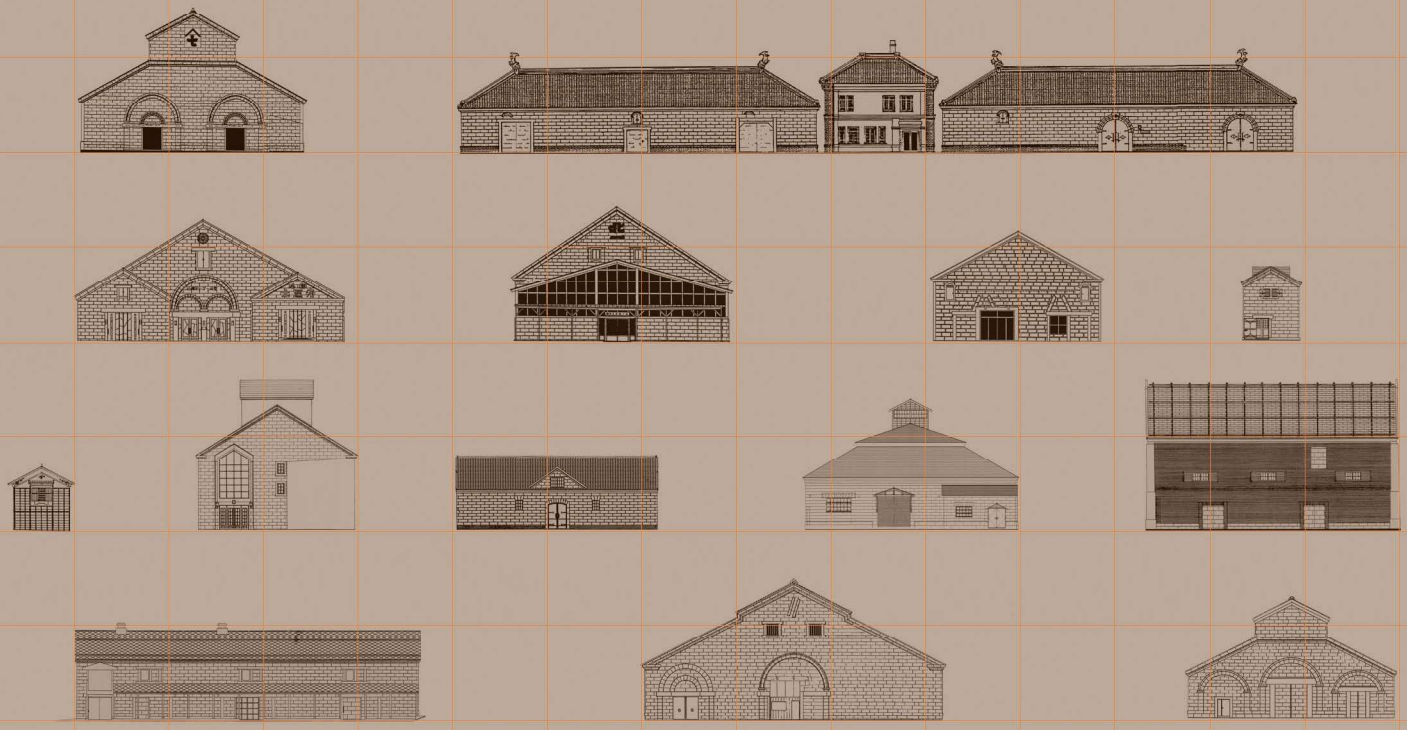
50 水天宮本殿、拝殿

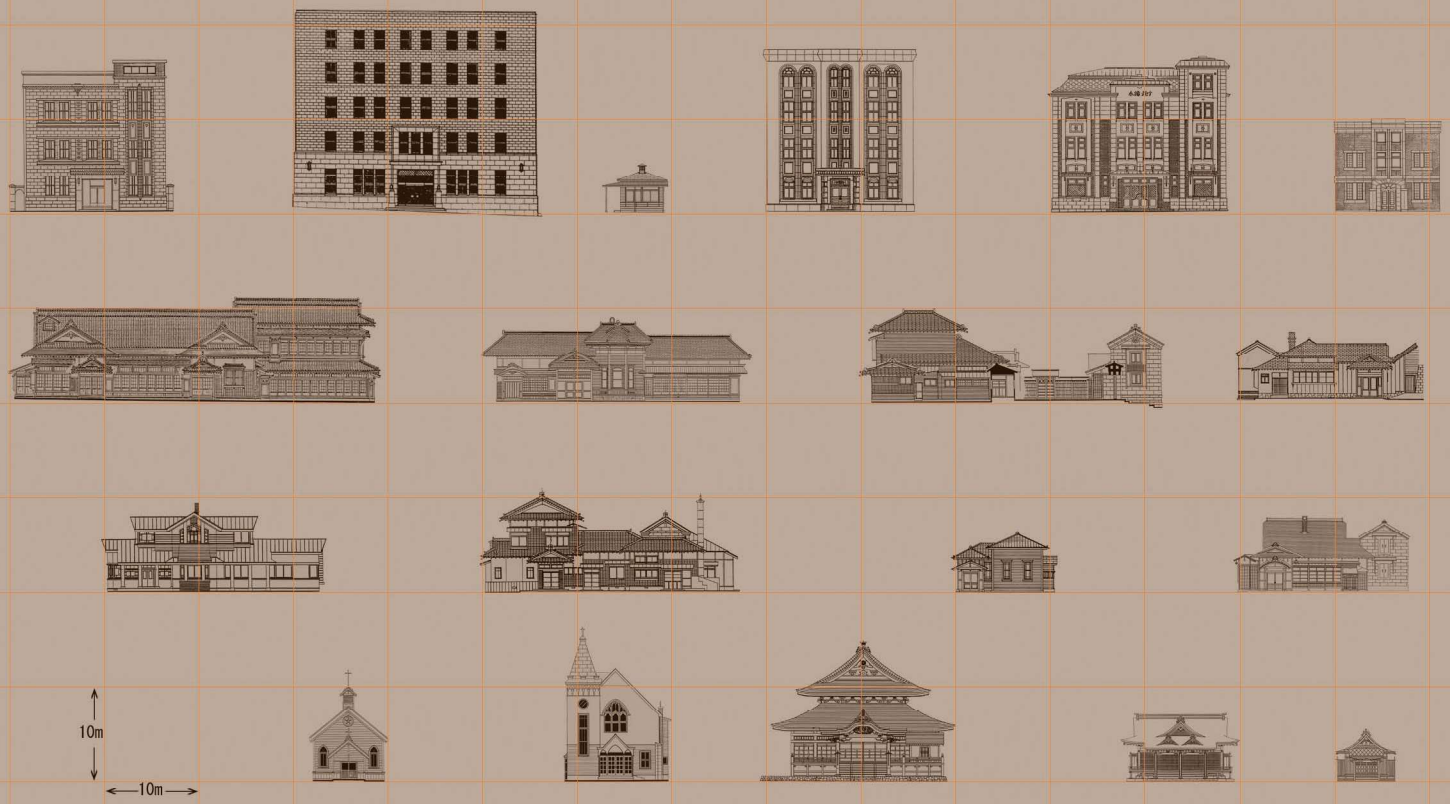
〈小樽市指定歴史的建造物第77号〉

77 旧浪華倉庫

用途凡例
●：倉庫　●：銀行　●：店舗　●：事務所　●：邸宅
●：教会・神社・寺院　●：その他　■：文化財（建造物関連）
※○内の数字は指定番号を表しています。





小樽市建設部新幹線・まちづくり推進室
〒047-0024　小樽市花園5丁目10番1号
TEL：(0134)32-4111　内線7472
FAX：(0134)32-3963
E-mail：matizukuri@city.otaru.lg.jp

令和5年12月22日改訂